

DAさんへのインタビュー（no. 051）

インタビュー報告レポート①

〔お話を伺った人〕

- ・政策学部政策学科4回生 DAさん 男性
- ・母親の友人の息子さん
- ・フットサルサークルに所属
- ・内定1社（中高生の進路支援を行なう会社）もらっているがまだ就活中

〔インタビューで聞きたいポイント3点〕

①企業選択について

DAさんは人を喜ばせたい仕事がしたいということで、職種はあまり絞らずに色々な企業を受けている。教育支援の企業に1社内定をもらっているが、まだ選考中の企業が数社あるという。企業選択の基準についてであるが、DAさんの場合は知名度や大企業がいいとか給与とかはほとんど考慮していなかった。企業を選択する上での彼の一番の重要なポイントは「やりがい」であるため、説明会などで企業の方にお話を聞いて自分にその企業が合っているかを確かめて企業を選択していったという。また、行きたいと思っている複数の企業の1日インターンシップに参加し、その企業の具体的なイメージを知っていった。

②就活の全体的な感想

全体的な感想はとにかく大変、とおっしゃっていた。エントリーシートはともかく、最終面接で落とされると、普段はあまり引きずらないタイプのDAさんでもさすがに精神的に参ったという。リーマンショック以降激変した雇用状況の悪化は採用人数の減少などで身をもって感じたが、そんな状況の中でも受かる人は受かるという。

またDAさんは、友人の大切さもおっしゃっていて、しんどい時に互いに助け合い励まし合ったのは友人であり、たまに友人と食事に行くことがストレス解消になっていた。しかし、友人が先に内定が決まると素直に喜べない自分がいて、葛藤もあったようだ。就活をしてよかったことは、コミュニケーションを取る際に相手にどうすれば伝わるのかが分かるようになったということ、いろいろな人の意見を聞きいろいろな人の考え方を知ることができたということだったという。さらに内定をもらったときの安堵感は特別だったとおっしゃっていて、そこは第一志望ではないものの、現在は余裕をもって他の企業の選考に臨むことができているという。

③今後の就活アドバイス

興味のない企業でも、話を聞くと意外と自分に合った企業が見つかる場合もあるので、あまり絞りすぎてはいけない。そして、大学生活で何かひとつでもがんばったことを言えるようにしなければならず、DAさんの場合はサークルの立ち上げ、議員インターンシップ、「でまちや」を自分の頑張ったことのアピールポイントにしていたという。ただし、その中で自分が何を学んだか、自分の役割も言えるようにしないとイケない。また、SPI や自己分析の対策もある程度は必要だが、面接ですぐに答えられる技術のほうが大事で、たとえば「自分を食べ物にたとえると？」と言うどうでもいいような質問でも、企業側には何かしらの意図があるので、それを見抜く必要がある。そして、長期の就活でモチベーションを維持するためには、選考に落ちたとしても引きずってはいけない。落ちる可能性のほうが高いということを念頭において、落ちてもすぐに忘れることが就活を長くやっていく上で大切だという。最後に、就活は早めに取り組むに越したことはないが、早いからといって内定がもらえるわけではないとおっしゃっていた。

[インタビューを終えて]

はじめてのインタビューだったこともあって、いまひとつ聞きたい事がまとまらず、質問内容がまちまちで答えにくかったと思う。また、初対面だったのでどこまで突っ込んで聞いていいのかが分からなかった。(例えば具体的な企業名)
まだ就活中であったが内定を1社もらっていたので、インタビュー中の受け答えも余裕があるように感じられた。また、企業選択についての質問で、一般的に男性はある程度、知名度や給与を考慮するのではないかと思っていたが、DAさんの場合はそこを全く考慮に入れていなかったことに驚いた。中小企業でもいいから、とにかく長く続けられる「やりがい」のある仕事に就きたいということを何度もおっしゃっていたのが印象的だった。

DBさんへのインタビュー（no. 052）

インタビュー報告レポート②

〔お話を伺った人〕

- ・社会学部社会学科4回生 DBさん 女性
- ・ゼミの先輩
- ・茶道部に所属
- ・JTB 北海道に内定をもらっている

〔インタビューで聞きたいポイント3点〕

①企業選択について

北海道出身のDBさんは、Uターン就職を希望していた。しかし、北海道だけに絞ると行きたい企業が限られてしまうので、東京や大阪での勤務も視野に入れていた。企業選択の基準としては、人と関わるのが好きなので、たくさんの人と関われる仕事ができる企業を選んでいったという。そのため、受ける業種も幅広く、メーカーや京都の老舗（中小企業）もたくさん受けていて、JTBは旅行業であるが特に旅行業に行きたかったわけではなかった。また、結婚してからもバリバリ働きたいということで総合職を選んだという。中小企業でも仕事内容にやりがいを感じればよいという考えであったが、最終的には大手に決まった。行きたいなと思った企業には積極的にOB・OG訪問をしたという。

②就活の全体的な感想

全体的につらい時期のほうが多かったが、楽しくなる時期もあり波があったという。つらい時は家族や友人に話を聞いてもらったり、音楽を聴いたり、おいしいものを食べたりして就活のストレスを解消していた。働くためにこんなに苦労しなければいけないのかと考えると、今まで働いて結婚して自分を産んで育ててくれた両親はすごいなと思ったそうだ。

また、就職活動を通して周りの空気の読み方、人との対応の仕方、協調性が身についたという。協調性は特に面接のグループディスカッションで鍛えられた。そして、面接での積極性の大切さは身にしみて感じたという。DBさんは、自分はずっと人と話すのも得意で積極的なほうだと自信を持っていたが、就活をしていくうちに周囲と比べたら自分はまだまだ全然ダメだと思ったそうだ。

また、内定をもらった時は、喜びよりも「社会人になる」というプレッシャーや責任感のほうが大きく、ずっしりとくるものがあったという。JTBという大手に決まったこと

についても、内定取り消しが100%ないわけではないし、大企業だから安心とは言えない、と冷静におっしゃっていた。

③今後の就活アドバイス

とにかく積極的になることが重要だという。積極的になることに恥ずかしがってはいけないし、かっこつけようと思ってもいけない。普段おとなしい人が面接の場などで急に積極的になるような異質な状況が就活であるそう。

そして、私たち3回生の就活も厳しくなるはずだから早めの対策をしたほうがいいとのことだった。DBさんの場合、本格的に就活を始めたのは10月のOB・OG訪問だった。この時から北海道での就職を視野に入れていて、キャリアセンターに行ったがOB・OGが北海道の企業にほとんどいなかったのので、自分で直接企業に電話し、同志社のOGを探し出したという。自分で企業に電話するのは最初緊張して不安だったが、積極的にやってみるとよかったとおっしゃっていた。OB・OG訪問はその企業の良し悪しを発見できるし、実際に働いている方にお話を伺うことで企業イメージを理解することができるので、したほうがいいそう。また、面接なども徐々に慣れていくものだし、構えすぎるのは良くないということだった。

[インタビューを終えて]

Uターン就職についての貴重なお話が聞けてよかった。DBさんは、最終的に地元の北海道で就職ができるということを嬉しそうにおっしゃっていた。調べたところ、最近はUターン就職を考える学生も多いという。私は一人暮らしをしているが、実家が近いのであまり地元に戻りたいという意識はそんなに強く持っていない。しかし特に女性にとっては結婚や出産を考える上で、友人や家族のいる地元で就職したいという思いをもつ人が多いのではないだろうか。女性にとって企業選択の際に、「勤務地」という要素は大きいのではないかと感じた。

DCさんへのインタビュー (no. 053)

インタビュー報告レポート③

[お話を伺った人]

- ・社会学部社会学科4回生 DCさん 女性
- ・ゼミの先輩
- ・でまち家に所属
- ・静岡銀行に内定をもらっている

[インタビューで聞きたいポイント3点]

①企業選択について

DCさんも前にインタビューをおこなった浦田さんと同様に、企業選択の基準として、Uターン就職を第1希望にしていた。その理由は、家族がいると安心だし、いつかは地元に戻りたいと思っていたため、それなら最初から就職も地元ですればいいと考えたからだそうだ。そのため、DCさんは受ける企業すべてが地元の企業だった。また金融系を中心に受けていて、それは地方銀行や信用金庫なら地元でずっと居られるからという理由だった。そして、地元という条件以外で、行きたい企業をどのようにして決めていたのかという質問に対しては、説明会などで話している人の雰囲気を見て、ここでこの人と一緒に働きたいと思える企業を選んでいたという。しかし、説明会だけでは人事の人の雰囲気しか分からないので、実際に銀行や信用金庫に行って働いている現場を見て、企業のイメージをつかんでいたそうだ。またもう一つの基準としては、つぶれなさそうで安定していて長く働ける企業であるということだった。

②就活の全体的な感想

就活を経験して、将来についてちゃんと考えられるようになったとおっしゃっていた。DCさんは、就活を始めたころは特に行きたい企業などもなく、何をしたいかも分からなかったが、就活していくうちに自分の方向性が見えてきたという。また、社会人と接する機会が多いため、社会人とどう接したらいいかを学べたそうだ。DCさんはエントリーシートを提出したのは約10社と比較的少ない方で、面接を受けたのも7社程度であった。しかし、それでも就活というものは精神的にも体力的にも辛いもので、「どこにも受からない」と思ってしまったり、周りと比べて自分を卑下していたりしたそうだ。だから、気分転換はとても重要だとおっしゃっていた。家族でも友人でも誰でもいいから相談できる人がそばにいる方がいいという。

③今後の就活アドバイス

とりあえず早めに自分の将来について考えておくことが大切だという。たとえば、女性なら一般職と総合職では働く環境も360度変わってくる。

企業を見る際には、企業の①人②モノ③カネの3つを見なければならないという。①は、先ほども述べたように働いている人の雰囲気を見ること、②についてはその企業が作っている商品やサービスがどのようなものであるかを見ること、③はその会社の経営状態を見ることであった。この3つを見ることによって、会社の全体像がつかめるそうだ。また、インターンシップは行った方がいいとおっしゃっていた。DCさんの場合は、公務員という選択肢もあったため、京都府庁へインターンシップに行ったそうだ。この経験から自分は公務員にはあまり向いてないと感じ、公務員はあきらめたという。だから、自分の将来の方向性も見えてくるし、社会人の輪も広げられるので、1日インターンシップでもいいから参加したほうが良いとのことだった。

[インタビューを終えて]

今回3回目のインタビューということで、過去の2回のインタビューの反省からどのような質問をすれば聞きたい回答が聞き出せるのかなどが少しずつ分かってきた。

今回インタビューさせていただいたDCさんはUターン就職希望者で、前回も浦田さんがそうであったため、やはり女性は地元志向が強いのではないかと感じた。また、印象的だったのはDCさんが企業を選ぶ際にとにかく人の雰囲気を見ていたという点である。やはり人間関係が良好でないとどんな企業でも働きたくなくなってしまうとおっしゃっていた。それを聞き、以前調べた新卒者が3年以内に離職する理由として「人間関係」が上位にあげられていたのを思い出した。

DDさんへのインタビュー (no. 054)

インタビュー報告レポート④

[お話を伺った人]

- ・商学部商学科4回生 DDさん 男性
- ・サークルの先輩
- ・茶道サークルに所属
- ・関西の地方銀行に内定をもらっている

[インタビューで聞きたいポイント3点]

①企業選択について

DDさんは地方銀行に内定をもらっていたが、金融系にはほとんど興味がなかったという。もともとメーカーを志望していたが、思うように就活がうまくいかず、絶対今年就職したかったので、妥協する形で金融を選んだとおっしゃっていた。DDさんが企業選択において重視したのは、第1に知名度である。知名度の高い企業の多くは大企業なので、多くの人と関われるのではないかと考えていたそうだ。第2に給料である。やはり、働くということは楽しみでもあるが、生活していく上で欠かせないものであるし、結婚して子供が生まれたら自分が支えていかなければならないので重要だとおっしゃっていた。最後に勤務地である。できれば地元の関西で就職したいと考えていて、見知らぬ土地で働くのは少し抵抗があったという。他にも会社の雰囲気や社風なども見るようにはしていたそうだが、そういうものは実際にその企業に入ってからしか分からない部分もあるのでそんなに重要視していなかったという。

②就活の全体的な感想

DDさんは今まで学業を学生生活において頑張ってきたので、就活を理由にして授業を休みたくなかったという。そのため就活と学業の両立が大変だったそうだ。それも含め、就活は本当にしんどかったが、いろんな人と話せる機会があったのは楽しかったという。特に、社会人のしっかりとした考えを聞くことができたのはいい経験だったとおっしゃっていた。また、自分がもともと希望していた企業に行けなかった事に対しては、もっと自分が行きたかった企業の考えをつきつめればよかったと後悔しているという。あまりネガティブに考える性格ではないため、自分は出来る、と自信を持って就活に臨んだが、自分の満足いかない結果になってしまって、相当落ち込んだそうだ。どうしてもプライドを捨てきれなかった、とおっしゃっていた。しかし、就活が終わった今は、金融で働くことに前向きになっていて「その企業に内定をもらえたのも何かの縁が

あったから」と考えるようにしているという。

③今後の就活アドバイス

来年の就活も厳しいものになるはずなので、企業を選びすぎてはいけないという。しかし、手当たり次第というのもだめで、どのくらい行きたいかというのを程度で分けなければならないとおっしゃっていた。DDさんの場合は企業を「特に行きたい企業」「行きたい企業」「滑り止めの企業」と3つに分類していたという。そして、それによって企業分析やエントリーシートの書き方もある程度工夫したそう。また、今のうちから就活についてあれこれと不安がったり、考えすぎたりしては就活が本番を迎えた時にはすでに息切れをおこしてしまうので、夏休みぐらいまではある程度遊ぶことも必要だし、とにかくメリハリのある生活をおくることが大切だとおっしゃっていた。

[インタビューを終えて]

今までインタビューしてきた方とは対照的で、DDさんは企業選択の際「知名度」や「給料」を重視していた。彼は働くこと＝お金を稼ぐこと、という思いが強いそうで仕事には必要最低限の楽しみしか求めないとおっしゃっていた。楽しみは趣味などのプライベートで満たしたいという考えで、仕事とプライベートをきちんと分けられる人間になりたいとおっしゃっていたのが印象的だった。

DEさんへのインタビュー (no. 055)

インタビュー報告レポート⑤

[お話を伺った人]

- ・社会学部社会学科4回生 DEさん 男性
- ・ゼミの先輩
- ・日用品メーカーのサンスターに内定をもらっている

[インタビュー内容]

①企業選択はどのようにおこなっていたか

DEさんは歯ブラシを集めるのが好きで、特にサンスターの歯ブラシのファンだった。そのため、第一志望のサンスターをはじめ花王、ライオンなどの日用品メーカーを中心に受けていたようだ。最初はミーハーな気持ちもあったという。それ以外ではコピーライターという仕事に興味があったため、広告会社やテレビ局も受けていた。DEさんは資生堂のコピーライターの部門でも内定をもらっていたそうだが、結局自分の好きなものを扱う仕事がしたいということで、周囲の反対を押し切って給料も知名度も上の資生堂よりもサンスターを選んだようだ。また、面接で面接官と一緒に受けている人を見て、自分と環境が合っているから、というのもサンスターを選んだ理由のひとつだったという。

②就活を終えての感想

就活を通してスケジュール管理をしっかりと出来るようになったそうだ。もともと時間にルーズで手帳も持ち歩くほうではなかったが、エントリーシートの締め切りや面接・説明会の日時は絶対書かないと多すぎて覚えられないという。また、就活で後悔したことは？という質問に対しては、SPIをちゃんとやっておけば良かったとおっしゃっていた。DEさんはほとんどSPIの勉強をしていなかったためにSPIを課す企業はことごとく落ちたそうだ。

そして、周りのサポートが就活中の自分を支えてくれたということもおっしゃっていて、自分が1浪しているため、もう就職している地元の友人に話を聞いてもらっていたという。逆に、一緒に就活している大学の友人にはあまり相談は出来なかったようだ。そのほかにも就活中に面接や説明会で出会った他大学の友人とは今でも仲良くしているという。

第1志望のサンスターに内定をもらえたことについては、自分のアピールポイントをしっかりと出せたことが良かったのではないかとおっしゃっていた。後は、先にテレビ局な

どのマスコミ系の厳しい面接を受けていたおかげで、面接慣れすることが出来たのも大きかったそうだ。

③就活で必要なこと・やっておいたほうが良いこと

DEさんは最初に「企業研究」を挙げていた。やはり、企業研究をしっかりとしていないと面接ですぐに見透かされるという。自分の行きたい業界や企業のことをちゃんと知っておくべきだとおっしゃっていた。また、ブレないことも大事で、自分のしたいことははっきりさせて、あれこれ手を出すのはあまりよくないという。そのためには自己分析も重要になってきて、自己分析だけでは分からない部分もあったので友人に分析してもらって客観的に見てもらうことで自分を知ることが出来、企業を選ぶ方向性も分かってきたそうだ。

そして、①でもあったように人事の人や面接官と一緒に受けた就活生を見ることでその企業の人の雰囲気・系統が分かるので人を見ることは企業選択において重要だとおっしゃっていた。

[インタビューを終えて]

第1志望に内定をもらっていたということもあって、非常に嬉しそうにインタビューに答えてくださった。DEさんは自分の好きなことを突き通して、その熱意や誠意が企業側に伝わったのではないかと思った。厳しい就職状況でなかなか思うように就活がうまくいかない人が多い中、DEさんのような人にインタビューできて良かった。

DFさんへのインタビュー（no. 056）

インタビュー報告レポート⑥

[お話を伺った人]

- ・同志社大学社会学部社会学科4回生 DFさん 男性
- ・ゼミの先輩
- ・地元の地方銀行に内定をもらっている
- ・まだ就活を続けている

[インタビュー内容]

《企業選択について》

地銀に内定をもらっているが、まだ地元の放送局が夏に採用があるためそれに向けてアナウンス講座を受けている。可能性がある限りは自分の夢を追いたい。他には、人材・派遣会社やスポーツメーカーを中心に受けた。企業選択の基準としては本社の所在地を重視していた。内定をもらっている地銀は、地元だと田舎なので銀行は強いし、お給料も割といいので金融にあまり興味はなかったが受けた。また、企業を選ぶ際に最初は知名度のある大企業ばかりに目を向けてばかりいたが、合同説明会などで自分が知らなくても面白い、ひきつけられる企業を発見することもあった。だから、いろんな企業を見ることが大事。

《就活で学んだこと》

基本的な会社のしくみについて理解することができた。
自分を見つめなおすいい機会になった。自分がどういう人間であるかというのはすぐにはわからない。長い間就活をしていくことで分かっていく部分がある。

《就活でのモチベーションの保ち方》

比較的前向きな性格であるから就活で落ち込んだりすることがあまりなかった。面接で落とされて自己否定する人もいるけど、企業は人を自分の企業に合うか合わないかで選んでいるから落ち込む必要ない。縁がなかったと思えばいい。せつかく企業に自分を見てもらえるチャンスなのだから、恥ずかしがらずに思いっきりぶつかったほうがいい。また、就活一本にならず適度に友人と遊ぶなどして、気分転換することも大切。

《厳しい就職状況の中での就活について》

就職状況の厳しさは採用人数の少なさという数字の面ぐらいでしか実感しなかった。好況であっても不況であっても内定をもらえる人はもらえるし、もらえない人はもらえない。厳しい状況であるからこそ自分の力を発揮できるチャンスかもしれない。だから、内定がもらえないのを不況のせいにはしてはいけないと思う。周りから「今年は就活厳しいらしいね、大変だね。」と言われても、気にせず自分に自信を持って挑むべき。

《同志社のネームバリューについて》

大企業など企業によっては学歴を重視するところもある。でも、大学名を伏せて面接をおこなう企業もあるし、良くも悪くもそこまで関係ないのではないかな。そういうのはあまり気にせずに、自分自身をもっとアピールしたほうがいい。

《就活において大切なこと》

企業選択において

女の子だったら一般職、総合職という選択や福利厚生をちゃんと考えたほうがいい。あとは説明会での会社の雰囲気や、働いている人達同士のやりとりを見て、上下関係やその会社の透明性をつかむことが大切。

やるべきこと

SPI は早めにやっておいたほうが良いと思う。

また、面接では自己PRや学生時代頑張ったことは絶対聞かれるから、それを面接官にうまく伝えられるように、つっこまれても返せるようにしておくべき。

[インタビューを終えて]

まだ就活を完全には終わらせていなかったが、早くインタビューを引き受けてくださった。DFさんはエントリーした企業数も周りと比べて少なく、がっつり就活をしている感じではなかった。しかし、まだアナウンサーとしての夢を持ち続けていて、インタビュー中に何度も「チャンス」という言葉が出てきたのが印象的だった。今まで数人にインタビューをしてきたが、いろんな方とお話していくことで、少しずつ自分のやりたいことやどうありたいかという方向性が見えてきた。

DGさんへのインタビュー (no. 057)

インタビュー報告レポート⑦

[お話を伺った人]

- ・同志社大学経済学部経済学科4年生 DGさん 女性
- ・サークルの先輩
- ・日興コーディアル証券に内定をもらっている
- ・エントリー数は50社、面接は30社ほど受けた

[インタビュー内容]

《企業選択について》

金融を中心に受けていた。金融は証券、銀行、損保・生保など幅広く受けていた。メーカーはほとんど受けていなくて、その理由としてメーカーはエントリーシートや面接がクリエイティブなものが多いので、思い浮かばないから志望しなかった。企業を選ぶ基準としては、一般職もしくはエリア総合職であること。つまり地元の関西にいられることが第一条件だった。最初は総合職も考えていたが、転勤などをして男性のようにバリバリ働いている自分が想像できなかったため、途中から一般職に絞った。

《企業選択でのアドバイス》

企業のカラードが本当に様々なので、そのカラーに自分が合っているのかどうかを説明会で社員や面接官の雰囲気を見て確かめることが大事。あとは、女性だったら勤務地はちゃんと見ておくべき。転勤で地方に飛ばされる可能性もあるし、自分にとって働くこととはどういうことなのかを分かった上で決めていかなければならないと思う。また、土日が休みかどうかということもちゃんと見ておいたほうがいい。銀行などは土日休みだけど、百貨店など企業によっては土日が休みじゃない場合も多くある。

《就活でつらかったこと》

全体的につらかったが、周りがどんどん決まっていっていった時が一番つらかった。内定が決まるのが遅かったのは、一般職だからということもあるが・・・
落ち込みすぎて就活中にウィルコムを買ってなかなか会えない友達と連絡を取ってぐちり合っていた。でも、それがあったからこそ乗り越えられた部分は大きい。

《就活で苦労したこと》

面接がいちばん大変だった。最初のほうは面接で全然受からなかった。受けていくうちに「印象」が大事なのだということに気づき、できるだけ笑顔を絶やさずに喋った。言っていることがありきたりでしょうもなくとも、笑顔は常に心がけるようにしていた。あとは、ハキハキと元気よく喋るようにしていた。あとはエントリーシートの期限が決まっているのでそれまでに出すのが苦労した。実際、期限までに間に合わなかったこともある。

《就活で後悔していること》

メーカーでもなんでも、もっとエントリーシートを出しておけばよかった。エントリーシートを書くのは結構時間かかるし、疲れてしまった。でも、チャンスがあるなら慣れるためにもエントリーシートは多めに出したほうがいいと思う。

《就活の対策は何をしていたか》

銀行など金融系を受けることが多かったので、新聞でその業界の欄をチェックしていた。新聞を見るのが無理な時なら携帯やパソコンのニュースなどを見ていた。あとは、筆記試験対策ぐらい。自己分析・企業研究はほかの人よりもやっていなかったと思う。

[インタビューを終えて]

サークルの先輩でよく知っていることもあって、普段の会話のような感じのインタビューだった。DGさんはあまり「働く」ということに前向きではなく、内定先の証券会社も特に強く希望していたわけではなかったそう。だからこそ、将来の不安もあるし親のもとを離れたくないという思いが強くなったという。今は総合職で男性と差なく働く女性が増えてきてはいるが、女性にとって「働く」意味を見つけるのは男性よりも難しいのではないかと感じた。

DHさんへのインタビュー（no. 058）

インタビュー報告レポート⑧

[お話を伺った人]

- ・同志社大学政策学部政策学科4年生 DHさん 男性
- ・サークルの先輩
- ・三井住友ファイナンス&リース株式会社 に内定をもらっている
- ・エントリー数は35社、面接は20社ほど受けた

[インタビュー内容]

《企業選択について》

最初は特に行きたい企業などもなかったのですが、とりあえず軸探しで幅広く受けようと思った。だから、メーカー・銀行・インフラ・通信などさまざまな企業を受けた。そんな中、セミナーでリースという事業に興味を持ち、調べてみたら面白そうだったからリース会社は3社ほど受けた。就活が進んでいくうちに「福利厚生」と「給料」の2つを軸にして企業選びをし始めるようになった。給料は銀行と信用金庫でも大きく差があったりする。男性はずっと働いていかなければならないから、やはり給料は重要なポイントだった。

ベンチャーは成功すれば年収何億という世界だが自分に合っているとは思わないし、もし嫌になっても転職が利かないというデメリットがあったために受けなかった。

《就活で大変だったこと》

気持ちの切り替えが大変だった。特に面接が控えている前の日に、他の企業から不採用の通知が来たときは気持ちの切り替えが難しかった。その負の連鎖が2週間ほど続いた時期があって、その時が就活で一番つらかった。

《就活でつらい時の乗り越え方》

面接前には必ずトイレに行って、過去の恋愛の思い出で幸せだったこと、嬉しかったことを思い出したり、この面接が終わったら何かおいしいものをごほうびとして食べようと決めたりしていた。面接前に気分を高めておくことはとても大切。あとは、面接に落ちた時は、とにかく寝ていた。寝たら割と忘れる。

《就活をして変わったこと》

働くことへの意識が変わった。最初は社会人になることがいやだったが、就活していくうちに、働くことはお金をもらって家族を養うという自分を成長させる場であると思えるようになっていった。社会と距離が縮まったとを感じるようになった。

《就活のアドバイス》

エントリーシート

書いていくうちに書くことが固まってくる。添削してもらい、志望度の低い企業に試しに出してみるといい。自然といいエントリーシートがかけるようになる。早め早めにやっておくほど、どう書けばいいのかというのが分かってくるし、自己分析にもなる。

面接

面接も慣れるために、試しで受けたほうがいい。人材会社はエントリーシートなしで面接を受けられる企業もあるので練習にはいいかもしれない。そうやって、面接慣れしてどんな質問にも機械的に答えられるようになる。

その他

語れる思い出を作ること。面接で追い詰められた時に、思い出すのはやはり印象に残っている思い出だから、そこからどう感じてどういうことを得たのか、というのを常に気にして生活したほうがいい。だから、普段の生活でも何か感じたことや、気付いたことがあればメモするくせをつけといた方がいい。あとからメモを見たら自己分析にもなる。

[インタビューを終えて]

DHさんは就活において必要なのは「切り替え力」ということをおっしゃっていた。周りで名の知れた企業に内定をもらっている人は切り替えのうまい人だという。

今回のインタビューは、感心したり納得したりする瞬間が多くて、今までで一番自分が聞いたかったことを聞いたインタビューだったように思う。就活のアドバイスがたくさん聞いてとても参考になった。

D I さんへのインタビュー（no. 059）

インタビュー報告レポート⑨

[お話を伺った人]

- ・同志社大学文学部国文学科4回生 D I さん 女性
- ・サークルの先輩
- ・かんぽ生命 に内定をもらっている

[インタビュー内容]

《企業選択について》

金融業界（生命保険・損害保険・銀行中心）に絞って受けていた。企業選択をする際の基準については、①社風が合うかどうか②事務職（一般職）を募集しているか③関西で働けるかということを重要視していた。あまり、仕事ばかりの人生は嫌なので転勤がないうところがよかった。また、かんぽ生命に決めた理由は、やりたい職種があったということと、面接で一番自分らしさが出せた会社だったから。

《就活の全体的な感想》

面接で落ちるとすごく落ち込んだけれど、それを乗り越えて、切り換えて次に進むことで、精神的に強くなれたと思う。また、自己分析をして過去の自分を振り返ったり、将来の人生設計について考えてみると、就活を通して自分自身と真剣に向き合う良い機会になった。内定をもらえた時は本当にうれしかった。

《やっておいた方がいいこと》

一番基本としてやっておいた方がいいのは、自己分析と学生時代に頑張ったことを書き出してまとめてみる。特に、自己紹介は面接で絶対聞かれることなので、早めに取り組んでおくといいと思う。友人や家族に自分の長所や短所を聞いて、客観的に見てもらうこともしていた。自分を知ることは、企業の面接官に自分をアピールするための第一歩。

《就職活動において大切だと思うこと》

とにかくたくさん動いて、いろんな会社を受けること。エントリーシートや面接の練習にもなるので。あとは、面接で、自分らしくいること。緊張したり飾ったりせずに、素の自分を出すことが大切だと思った。絶対笑顔を忘れずに！なかなか難しいけど、面接を楽しもうという気分で臨んだらいいと思う。

《就活のアドバイス》

初めから一つの業種や会社にこだわらずに、幅広くたくさん説明会に行ってみた方がいいと思う。また、人と比べて焦ったりすることも出てくるかもしれないけど、あきらめずに努力し、いつも笑顔で自分らしくいれば、きっと自分に合う企業が見つかると思う。

[インタビューを終えて]

D Iさんはサークルの先輩でいつも落ち着いていておっとりした性格で、あまり仕事一筋にならないような感じの人なので、インタビューで事務職（一般職）を希望していたと聞いて納得できた。とにかく、「自分らしく」という言葉をよく使っていて、マイペースに就職活動をしていたように感じた。

D Jさんへのインタビュー（no. 060）

インタビュー報告レポート⑩

[お話を伺った人]

- ・同志社大学商学部商学科4回生 DJさん 女性
- ・友人の先輩
- ・食品メーカー（詳細は不明）に内定をもらっている
- ・エントリー数は40社、面接は20社ほど受けた

[インタビュー内容]

《企業選択について》

食品に関わりたいと思っていたので、食品メーカー中心に受けていた。大企業とかにはこだわらず自分のやりたい事を優先させた。調べてみると、あまり知られていない企業でも私たちの生活に貢献しているところがたくさんあって、そういう企業の方が自分のやりたいことが実現しやすいかもしれないと思った。説明会に行って、社員の雰囲気が良いなと感じたところはだいたい受けた。今回内定をもらった企業も、説明会の雰囲気がよかったので、働いてみたいなと思ったのが大きかった。

《自己分析について》

自己分析は企業選択においても面接・エントリーシートにおいても大切。自己分析をする際のコツとしては、①自分の得意なこと（誰にも負けない点）②自分のなかのきらりと光る部分③今までの学生生活の中で一番頑張ったこと④今までの人生での最大の挫折、その乗り越え方を書けるようにしておいたほうがいい。

《企業研究について》

自己分析がある程度できてきたら、企業研究をおこなった。その際に研究したポイントとしては、①その会社でやりたい仕事②同業他社より優れている点③10年後に貢献している仕事④その他興味をひかれる点だった。これは企業から送られてきたパンフレットを中心に研究した。このやり方は、そのまま志望企業の企業活動に即した志望動機が書けるようになり、非常に役に立ったと思う。

《就活のつらいときの乗り越え方》

面接に落ちた時は落ち込んで泣くことも多かった。でも、思いっきり泣いたあとには何が悪かったのか、何が足りなかったのかを分析して反省するようにしていた。そうすることで、自分を見直すことができたし、「やりっぱなし」はいけないと思う。あとは、ありきたりかもしれないが友人や家族に話を聞いてもらっていた。溜めこむのは良くないし、逆に話すことで友人や家族との仲も深まった。

《就活生へアドバイス》

就職活動をする人にとって不安は必ずつきまとうもの。実際、自分の就活も不安とプレッシャーとの戦いだった。でも、その不安の力をプラスの力に変えられたから内定がもらえたのだと思う。だから、これから就活する人は不安から逃げることなくプラス思考で真正面からぶつかっていくことが大切。今できることを精一杯やること、それが満足の出来る結果を得るための一番の近道であると思う。

[インタビューを終えて]

D Jさんは自己分析の仕方、企業研究の仕方など就活の攻略法のようなものを細かく教えてくださって、とてもためになるインタビューであったと思う。最近金融に内定をもらった先輩のインタビューが多かったので、女性の総合職でメーカーに内定をもらっていたD Jさんに話を聞いたことはとても貴重だった。D Jさんは働くことが楽しみでしかたないとおっしゃっていて、自分も来年このようになっていけばいいなと思った。